

❖ コロナに負けるな！ 頑張れ、なわて！ ❖

新型コロナウイルス感染拡大防止により、サロン活動ははじめ地域の様々な取り組みが、中止になっています。ボランティア活動についても、活動を制限されている状況にあります。その中でも、自分にできることを見つけて活動されているボランティアさんたちがいらっしゃいます。

今回は、ボランティアさんによる「手作りマスク製作」活動を紹介いたします！

❖「手作りマスク製作」～ボランティアさんの工夫～

「マスクが買えないですね。」と何気なくボランティアさんにつぶやきました。ボランティアさんも市内どこもかしかもマスクが不足していることを知り、ある日の朝のこと、「どう、これ？」「ちょっと見てみて！」と自ら製作されたマスクを見せに来てくださいました。

手作りマスクは、色柄も豊富、サイズもいろいろ。細部にわたって丁寧に作られています。市販のマスクはなかなか顔に沿わないことが多いのですが、ボランティアさんが作ってくださったマスクは、しっかりと顔に沿ってくれます。

「布（ガーゼ）と細めのゴムがあればできるのよ！」とまだまだ作る意欲満々でいらっしゃいます。ボランティアさんの飽くなき意欲に脱帽です。普段のボランティア活動ができなくても、発想の転換をして、ご自身の得意なことを活かして活動していただきます。

これをきっかけにして、マスクを必要とする人にどうにかしてマスクをお届けできないかと「マスクシェアリング事業」を考え、事業化を検討しました。この事業は、自宅などに眠っている生地やゴムをご提供いただき、ボランティアの方に依頼して制作し、出来上がったマスクを必要な方にお渡しするものです。

地域の皆さんと、この状況を乗り切り、一日でも早く安心して生活できると良いなと思います。

そして、地域がもとどり元気になりますように。



※この手作りマスクは市内の福祉施設や子育て関係、学校関係に配布しました。

❖ 今できることに熱意（パッション）をもって行動（アクション）することこそ、生活支援コーディネーターの使命（ミッション）

サロン等の活動の場が制限されて自宅に引きこもりがちな高齢者を、各コーディネーターや地域包括支援センター職員が、自宅のできる体操や感染予防のチラシなどを持参して、地域に出向いています。

地域活動が停滞しているから、生活支援コーディネーター活動ができないわけではありません。今こそ、生活支援コーディネーターの知恵と腕の見せどころです。また、地域での情報もお待ちしています。お気軽に下記の生活支援コーディネーターにご連絡ください。

- 第1層生活支援コーディネーター 橋本（四條畷市社会福祉協議会）
- 第2層生活支援コーディネーター 高垣（四條畷第1地域包括支援センター）
- 吉井（四條畷第2包括支援センター）
- 吉川・森口（四條畷第3地域包括支援センター）

❖ 地域の持つ力に感謝

地域にネットワークを持つ各地区の地区福祉委員会や民生委員さんのお力をお借りして、外出自粛を余儀なくされている高齢者をはじめ支援を必要としている方が、地域から孤立していたり不安を感じていないかなど、電話等で安否確認をいただいています。地区においては、「緊急事態宣言」が発令される以前から、個別訪問などをしていただいている地区もあり、地域の力に大変感謝しています。



発行 社会福祉法人四條畷市社会福祉協議会
〒575-0043 四條畷市北出町3番1号
☎ 072-878-1210

監修 くすのき広域連合四條畷支所
(四條畷市役所高齢福祉課内)
〒575-8501 四條畷市中野本町1番1号
☎ 072-863-6600

❖ 「令和元年度四條畷市域生活支援サービス協議体」活動報告 ❖

❖ 「市民啓発・居場所づくり」ワーキンググループ ～「サロン講座」の開催をみんなの手で～

令和2年3月14日に「地域の隅々まで、異年齢の交流の場を私たちで作ろう」をスローガンにして、「サロン講座」を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により、開催することができませんでした。この企画に関して、ご協力いただいた皆様には大変申し訳ない気持ちでいっぱいですが、**中止ではなく延期**です。必ずこの状況が好転した暁には開催しますので、その時は多くの皆さんに参加いただきたいと思っております。

このワーキンググループで「居場所」「繋がり」をキーワードにして、話し合いをしていく中で、メンバーの中からご自身の地域で「地域の居場所づくり」として、区長さんや老人クラブを巻き込んで「地域・児童ふれあい教室」を新たに取組もうとされている地区があります。小学校の許可も得ていつでも活動開始できる体制です。今回の新型コロナウイルス感染拡大もあり、開催のめどは現時点では立っていませんが、ワーキングでの話し合いが住民さんの心を突き動かすことに繋がったことを誇りに思っています。



❖ 「移動・外出支援」ワーキンググループ ～「四條畷市内インフォーマルな移動手段」冊子完成！～

このワーキンググループでは、今までに収集した情報をワーキングメンバーで共有すること、市内の事業所や高齢者の方に情報提供する目的で、今回冊子にまとめました。

もともとは、高齢者を支援しているケアマネジャーから、出た「移動」に関する課題についてアンケートを取ったことからはじまりました。比較的自力で外出できる高齢者が、自由に外出できるようにオリジナルのコミュニティバスルートのリーフレットを主任ケアマネジャーが作成しました。利用者ひとりひとりのニーズに応じたオーダーメイドのバス時刻表もあります。各事業所のカフェの送迎のルートなど既存の情報も掲載しています。



今後は、これらの情報の更新についても検討するとともに、新たな課題の抽出もしていく予定です。

❖ 地域での自主的な取り組み紹介 ❖

わいわい「ソラリン」誕生 ～民間事業所の取り組み～

中野にあるサービス付き高齢者向け住宅「エルダーガーデン」で、カフェ“わいわい「ソラリン」”がオープン予定です。コンセプトは、子どもから高齢者まで気軽に立ち寄れる居場所、「エルダーガーデンに来れば楽しめる」です。カフェ以外にイベントとして、ボランティアによる演奏会や体操、フルーツ販売に移動スーパーなども企画予定です。地域の方の参加も大歓迎！

現在、新型コロナウイルス感染の拡大防止により、この取り組みは見合わせておられますが、興味のある方は、エルダーガーデン内にあるソラスト四條畷（☎072-800-5186 FAX072-800-5773）までお問い合わせください。

(第2層生活支援コーディネーター 高垣)



「ちょボラ」レッツ・トライ! ～小さなことから始めてみませんか?～

四條畷荘で、小さなボランティア活動が始まっています。

毎週木曜日のカラコロ体操終了後に有志が集まり、ご入所者と一緒に施設周囲の散歩や、お話し相手になったり、入所者の方にマニキュアを塗って差し上げるなどのちょっとしたボランティア（「ちょボラ」）をしています。ボランティア活動をする人も「それなら私にもできる。」と徐々に増えています。活動を通して、入所者の方はもちろん、ちょボラの皆さんも笑顔でいっぱいです。

「ボランティア」と聞くと難しく考えがちですが、ご近所での助け合いでの「ついでに」や「一緒に」もちょボラと同じではないでしょうか。ちょボラの輪は、皆さんの地域にも広がっているかもしれません。ボランティア活動に興味のある方、まずはちょボラから始めてみませんか？

(第2層生活支援コーディネーター 吉井)



田原に集いの「はな」が咲いたよ ～新集いの場「グループはな」～

令和元年1月、パークヒルズ田原苑ふれあい広場にて、「グループはな」の活動が開始されました。『手芸を通して出会い、楽しむ』という思いの有志でつくったそうです。和気あいあいと生地を選び、「何を作ろうかな」と楽しみな様子がかがえます。目標は、秋にふれあい広場で開催される『みんなの作品展』への出品だそうです。



活動日は、毎月第2火曜日10:00～12:00、「好きな時間に来て、好きなものを作り、好きな時間に帰って大丈夫」がモットーです。今後は、ミシンも導入していく予定だそうです。

手芸をはじめてみたくなった、そんな一日でした。

(第2層生活支援コーディネーター)

第1回公式ワナゲ大会開催 ～市老連の取り組み～

令和2年2月19日の少し肌寒い朝、地域の高齢者が、四條畷市立市民総合体育館 サン・アリーナ25に集合です。メインアリーナの入り口では、順番を待つ皆さんが、楽しそうに会話をしています。

今日は、市老連での初の試み、「公式ワナゲ大会」の開催です。

市老連では、四條畷市内の高齢者の健康維持と介護予防、認知症予防を目的として、「公式ワナゲ大会」を開催しました。大会前に、保健センターの保健師さんによる血圧測定と市老連による体力測定がありました。「公式ワナゲ大会」でテンションが上がっているせいなのか、いつもより血圧高めの方もたくさんいらっしゃいます。大会開始前に少し時間をいただいて、認知症地域支援推進員さんが認知症予防について、四條畷警察署からは高齢者を狙った特殊詐欺について啓発活動をしました。



市老連会長の挨拶が終わり、いよいよ大会開始！皆さん童心に帰って、楽しそうに競技に熱中していました。大会なので順位はつけざるを得ませんが、順位に勝るものとして、参加者皆さんの笑顔、笑い声がアリーナ中に響いていました。

(第1層生活支援コーディネーター 橋本)

